

令和6年度法人事業計画

社会福祉法人 幸輝会

・ 法人の使命

人間尊重の基本理念の下、地域社会に根ざした福祉活動を通じて関係性の維持、再構築を図り、地域の基幹的支援施設としての役割を果たします。

・ 現段階の総括と課題、問題点

社会経済活動は本格的な回復軌道にありますが、社会福祉法人を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続いています。物価高、人材確保難、感染症といった経営課題が山積する中、令和6年度の報酬改定では僅かながらのプラス改定となりました。課題を一気に解消するには程遠いレベルですが、置かれた環境下で法人運営を安定軌道に戻していかなければなりません。そして地域社会に貢献し続ける法人としてより進化形を目指して、日々愚直に取り組んでいく必要があります。

・ 今年度法人の基本方針

多様化するニーズに応えるだけでなく、潜在的ニーズを自ら察知して提案していくことが求められています。情報へのアンテナをしっかりと張って、攻めの姿勢で幸輝会の強みを一層伸ばし発揮していくことを期待しています。

・ 今年度法人の全体目標

『 想像力と創造力が、未来を切り開く！ 』

・ 具体的行動目標

- 福祉サービスの質の向上（利用者の尊厳と意思の尊重）
- 福祉人財の確保・育成と定着（働き方改革の推進）
- 健全性と透明性の確保（コンプライアンスの徹底）
- 財務規律の安定強化（スケールメリットの活用）
- 持続可能な社会の実現に向けて（SDG s の取組み推進）
- 災害発生時に対する備え（BCP と体制整備）

・ 数値目標（各拠点事業所単位）

- ◇ 経常収支差額比率： 4%±1%以内（指定管理事業所は5～6%）
- ◇ 事業活動人件費率： 63%±1%以内
- ◇ 事業活動経費率： 31%±1%以内

令和6年度事業計画

特別養護老人ホーム幸輝園「介護老人福祉施設」
「短期入所生活介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

新型コロナウイルス感染症も「5類相当」となり、施設内外の行事の再開、面会制限の緩和など、徐々にコロナ感染症前の日常に戻りつつあるが、ひとたび施設内で感染が確認されると、軽症で済む入所者がいる一方、高齢や持病を抱える入所者が重症化するなど、状況を見極めた対応が必要とされている。その結果、重症化を防ぐような感染対策支援とADLや活気の低下を予防する日常生活支援をバランスよく行う必要がある。

超高齢や様々な疾病を抱えた入所者が増えており、施設内での医療ニーズへの対応や迅速な外部医療機関との連携が求められている。また看取り支援も増えており、入所期間も短くなる中で、相談員だけでなく、介護職員、看護職員など、施設全体で早期にご利用者及びご家族との信頼関係の構築が必要となっており、より一層、情報の共有、多職種連携が必要となっている。

そして人材確保が難しくなっている職員の状況においても、腰痛などの体調不良を抱える職員が増えており、限られた人数の中で、通常業務に加え、外国人労働者や新入職職員への教育など、一人一人の職員への負担が増えている。その為DX化やICTの活用を行い、業務の見直し、効率化を図ることで、生産性の向上を行っていく必要がある。

そして、入所者が楽しみを持って生活することができ、職員がやりがいを持って働くことができる施設となるように取り組んでいく必要がある。

《サービス基本方針》

- ・ 施設内外の連携強化を行い、異常の早期発見、早期対応を行い、入所者一人一人のニーズに沿ったケアを行えるように支援します。
- ・ 業務の効率化、身体への負担軽減を行い、職員一人一人が心と身体にゆとりを持って働くことができることで、入所者の生活の質の向上を行います。
- ・ 利用者はもとより、職員にもやさしい介護ロボット等の介護用品の活用に取り組む。

《行動目標》

『多様化するニーズに答えることができ、

その人らしい生活の支援を行ってまいります！』

《数値目標》

- ・ 長期平均稼働率 96%（1日平均92名以上）
- ・ 短期平均稼働率 75%（1日平均13名以上）

令和6年度事業計画

高島デイサービスセンター「通所介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

- ・ 新型コロナ感染症も「5類相当」へ移行し、カラオケなどのアクティビティや外出行事などを再開しているが、中止していた期間が長く、当事業所の良さ、強みのアピールが不足しており、新規利用者の獲得につながっていない。きめ細やかなサービスの提供、状況報告などを行い、当事業所の魅力を伝えていく必要がある。
- ・ 要支援の利用者から要介護5の利用者、重度認知症の方や尿道留置カテーテルなどの医療的ケアの必要な方まで、利用される方の状態が多様化しており、介護・看護職の専門性向上が求められている。また、人数も限られた中で、多様なニーズに対応するためにも、業務の見直し、効率化を行っていく必要がある。
- ・ 在宅生活を支える上でのニーズも多様化しており、短期入所サービスや他の通所サービスなど、他のサービスと併用される利用者が増えており、登録者数に対して、稼働率が安定しない状況となっている。複合型サービスへの移行を行い、多様化するニーズへの対応強化を図る必要がある。

《サービス基本方針》

- ・ 利用者一人一人の生活に着目し、生活スタイルに合わせた利用者一人一人のプログラムを提供していきます。
- ・ 業務の効率化、職員の専門性、資質向上に努め、様々なニーズに対応できるように努めていきます。
- ・ 複合型サービスへの移行を行い、ワンストップで在宅生活を支えることができるように努めていきます。

《行動の目標》

『 顔なじみの職員によるワンストップのサービスを提供し、

その人らしい生活を支えていきます。 』

《数値目標》

- ・ 目標稼働率50%（1日平均 12名以上）

令和6年度事業計画

幸輝園ヘルパーステーション「訪問介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

- ・ 新型コロナ感染症が「5類相当」へ移行され、日常を取り戻しつつある中で、利用者の意識も徐々に薄れつつあり、感染対策を行う職員との間に、危機感の差が生まれてきている。利用者の異常の早期発見に努め、適切な感染対策を行うことで、切れ目の無いサービス提供を継続していく必要がある。
- ・ 利用者の重度化や周辺事業所の閉鎖などがあり、利用の問い合わせは続いているが、食事提供やゴミ出し、デイ送り出しなど同じ時間帯での提供を希望されること重なっており、受け入れが困難なことが増えている。ひとりひとりの提供状況を見直し、必要な利用者に必要なサービスが届くように調整をしていく必要がある。
- ・ 訪問介護職員が不足しており、新入職職員の人材育成への時間が十分に取れず、職員定着に繋がらず人材不足となっている。今後、業務の効率化を図り、職員教育を充実させ人材の定着に努めます。

《サービス基本方針》

- ・ 異常の早期発見、適切な感染対策を行い、途切れることなく、サービス提供を行えるようにします。
- ・ 関係機関と連携強化を行い、様々な状況、事情に合わせた柔軟なサービスを提供し、1日でも長い在宅生活が送れるように支援していきます。
- ・ 業務の見直し、効率化を行い、職員間での情報共有、資質の向上に努め、きめ細やかなサービスを提供していきます。

《行動目標》

『利用者ひとりひとりの生活に向き合い、

安心して過ごすことができるサービスを提供します。』

《数値目標》

- ・ 実利用者人数 40名（月延べ提供回数300回以上）
介護利用者 200回
総合利用者 100回

令和6年度事業計画

さつき園「地域密着型介護老人福祉施設生活介護」
「短期入所生活介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

令和5年度上半期は、入院者や退去者が少なく、比較的稼働率は安定していました。しかし、秋頃より入院日数の長期化や身体機能低下による体調不良者の増加、医療機関での死亡による退去者が増え、稼働率が低下傾向にあります。

各フロアの近況として、3階フロアは食事介助や特殊浴槽対象の入居者が増え、全体的に介護量が増加しています。身体機能や耐久性の低下、認知機能の進行に伴い、レクリエーションや趣味活動などを行える方が減少しています。入居者一人ひとりに合った「楽しみ」を考えていくことが大切と考えます。また、2階フロアの入居者は比較のお元気な入居者が多く、花見やコスモス鑑賞、お屠蘇や節分の豆まきなどの季節行事を積極的に実施しています。さらに、新たな取り組みとして、ヤクルトや豆腐販売を導入し、入居者が施設内で商品を購入できるようになりました。「楽しみ」のある日々を実現するために工夫を続けていきたいと考えます。

今後の課題として、日々の健康管理の強化と職員間のコミュニケーションを円滑に行い情報を共有することで、入居者が抱える不調等に敏感に対応して「早期発見」・「早期受診」に繋げること。また、入居者の重度化に伴い介護量が増加し、職員の業務負担も増えていることから、入居者へ「安心」・「安全」なサービスの提供、更には職員の負担軽減を図り働きやすい職場環境を提供するために、ボディメカニクスやポジショニングの研修、福祉機器の使用を積極的に取り組みます。

4年間に渡り新型コロナウイルス等の感染症対策により、入居者とご家族とのふれあいの時間が減少しています。面会の在り方を再検討し、入居者とご家族の繋がりを大切にできるように取り組んでまいります。

《サービス基本方針》

- ・入居者の体調や変化に気づける様、職員間で情報を共有し、早期対応に繋げられる様努めます。
- ・入居者・利用者個々の楽しみを大切に、「笑顔」で「その人らしい生活」を送ることができるよう、一人一人に寄り添い、個々のニーズに応じた支援を目指します。
- ・サービスの質の向上と入居者への負担軽減のために、施設内外での研修に積極的に取り組み、スキルアップを目指すと共に、安全で安心な介護を提供するよう努めます。

《行動目標》

『確かな知識と技術を身に着け、

一人ひとりの毎日に寄り添った支援を行います。』

《数値目標》

- ・入居平均稼働率 94% (1日平均27名以上)
- ・短期平均稼働率 80~84% (1日平均7~8名)

令和6年度事業計画

かたらい「小規模多機能型居宅介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

- ・『ご利用者の自立を目指して、必要な手を差し伸べよう』を行動目標に、その方にとっての『生活の質の向上』を検討し、その時の状況や個別ニーズに合わせた支援を行ってきました。課題としては、悪化している状況に対しては目につきやすく、小規模多機能らしい臨機応変な対応に繋がっていたと思いますが、一方で余暇活動等の『楽しみ』に対するアプローチが消極的になっていたと思います。
- ・今年度は地域との関係性に重視し、家族と事業所だけでご本人を支えるのではなく、地域の方にも支えていただけるよう取り組んできました。地域の方への挨拶、地域活動への参加など意識的に行うことで、地域の方の協力が得られるようになってきました。ただ、ご利用者と地域との関りは個人差があり、地域との関りがいない方がいるのも事実です。そういった方に対してのどう支援していくのか、有効な社会資源は何かを検討していくことが課題です。
- ・個別のニーズはかなり多様化し、一人当たりの希望されるサービス量も増えてきています。全員の希望に添えるサービス提供を行う為にも、ご利用者自身ができる事を把握し必要なサービスを検討していく必要があると思います。

《サービス基本方針》

- 専門的な視点を持ち、潜在的なニーズの把握や臨機応変な対応に努めます。
- 多様なニーズへの的確な対応を図ります。
- サービス評価(事業所評価と地域の外部評価)において各職員が自己を振り返り、より質の良いサービス提供を目指します。
- 感染症や災害が発生した場合でも、必要なサービスが安定的継続的に提供される体制を構築していきます。(BCP)
- 住み慣れた地域で暮らしていけるよう、地域の方との関りを重視していきます。

《行動目標》

できるを増やして、思わず笑みがこぼれる毎日に

～地域とふれあい、支え愛、心で繋がる寄り添うケアを～

《数値目標》

- ・平均稼働率 93% (平均登録人数 27名以上)

令和 6 年度事業計画

幸輝園デイサービスセンター

《現状の総括及び課題と問題点》

- ・ご利用者の超高齢化が進み、今まで以上に日々の体調や様子の変化に注意を払う必要があります。そのような状況の中、楽しく活動的なサービスを提供する時間と、休息をとって頂く時間のメリハリをつけて看護・介護の連携をとり、協力してプログラムを提供しています。
- ・新規のご利用者の獲得ができず稼働率の低下が続いています。要因の一つとして個別機能訓練やその他の取り組みをご家族やケアマネージャーへ情報提供することが不十分であったと考えます。令和 6 年度は、デイサービスの特色や魅力を再構築し、地域の方やご家族、そしてケアマネージャーへの情報提供の方法も工夫・改善し、この地域に必要とされるデイサービスを目指します。
- ・コロナ禍で落ち込んだ稼働率を戻すために、4 月以降高島デイサービスセンターと合併し、新たなご利用者と、現在のご利用者一人一人に合った体調管理等を行いながら、より一層活動的なデイサービスを目指し、楽しく通っていただけるよう努めてまいります。また、積極的に新規のご利用者も獲得し、稼働率の安定化を図りたいと考えております。

《サービス基本方針》

- ひとつでも多くのヒヤリ・ハットに気付き、事故を未然に防ぐことに努めます。
- ご利用者の体調や様子の変化にいち早く気付き、安心して利用できるデイサービスを目指します。
- いつまでも住み慣れた地域・自宅で生活できるよう、ご利用者の状態に合わせたアクティビティ等、充実したプログラムを提供します。
- 情報発信等の新たな取り組みを行いご利用者やご家族に満足していただけるサービス事業所を目指します。
- 感染症や災害が発生した場合であっても必要な介護サービスが継続的に提供できるように研修・訓練の実施等をすすめていきます。

《行動目標》

『変化と行動で、輝く笑顔』

《数値目標》

- ・平均稼働率 88%、1 日利用平均 22 名以上（定員 25 名）

令和6年度事業計画

幸輝園ケアプランセンター「居宅介護支援事業所」

《現状の総括及び課題と問題点》

新規依頼を断ることなく支援を必要とするご利用者・ご家族の立場になり、ご利用者が望む適切かつ必要な介護サービス・医療サービスの提案や提供ができたと思います。

しかし、目にみえない問題や複雑かつ困難ケースに対して対応しきれず、多職種・各事業所との連携が図れていなかったと思います。

基本に立ち返り、介護保険制度から高齢者に必要な制度への理解を深めることでご利用者・ご家族によりよい提案ができるようにします。

専門職が想像力を駆使しつつ情報を収集して事実を発見し、想像の対象は言葉で聞けないところ・観察できないところにあることを頭に入れ、ご利用者・ご家族の生活（背景）の思い、ご利用者・ご家族が想像できないリスクを専門職が想像していく力を発揮できるように取り組みます。幸輝会の各事業所と連携を図り地域と協力しながらご利用者・ご家族の思いに寄り添いたいと思います。

《サービス基本方針》

- ▶ ご利用者の自立支援と悪化の防止に努めます。
- ▶ 虐待の発生の防止・早期発見に努めます。
- ▶ 介護保険制度に則し、コンプライアンスを遵守した公正・中立な業務を継続します。
- ▶ 一人ひとりが、業務改善・見直しに努め介護支援専門員としての資質・専門性の向上に努めます。
- ▶ 感染症や災害が発生した場合であっても必要な介護サービスが継続的に提供できるように業務継続に向けた計画等の策定、研修・訓練の実施等をすすめていきます。

《行動目標》

『想像の対象は目に見えない 想像する力を身につけよう！』

《数値目標》

- ・ 要介護 ケアプラン作成数 月平均100件
- ・ 介護予防サービスおよび介護予防マネジメント プラン作成数 月平均15件

令和6年度事業計画

かがやき「ケアハウス」

《現状の総括及び課題点》

- ・現在ケアハウスでは何らかのサービスを利用している方が多く、生活を支援するためにご家族や他職種との連携、協力がより不可欠になっている状況です。
昨年度は転倒事故で入院される方が4名おられました。回復してケアハウスに戻って来られています。自立した方でも歳を重ねて来られている為これまで出来ていたことが出来なくなってくることは当たり前のことです。ご自分の生活の中で危険と感じたことを日々振り返り、安全な方法に改善できるよう声掛けや援助を行い、安心してケアハウスの生活を続けて頂きたいと思えます。
- ・ご入居者の感染症への不安は変わりませんが、その中でも周りの状況に合わせて面会や外食、外泊、行事など行うことが出来ました。今後もご入居者、ご家族、他事業所等の協力を得ながら、ご入居者の「楽しみ」やご自分の「したい思い」に取り組めるよう入居者の声に耳を傾け、必要なサービスに繋ぎ「ご入居者の安心した生活と笑顔あふれる暮らし」を支えて行きたいと思えます。

《サービス基本方針》

- ・ご入居者が心身共に健康で安心した暮らしができるよう、ご家族様・他職種と連携して生活を支援致します。
- ・ご入居者のニーズが多様化している中、適切な提案や助言が出来るように職員一人ひとりのスキルアップに努めます。
- ・一人ひとりの「思いを」を大切に、笑顔あふれる暮らしができるように努めます。

《行動目標》

『ご入居者の安心した生活と笑顔多い暮らしの実現を目指します。』

《数値目標》

- ・定員29名に対し28名を維持する。

令和 6 年度事業計画

みまさか園「介護老人福祉施設」
「短期入所生活介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

コロナ禍の中、面会の見直しや、御家族・職員との外出企画、御利用者の生活も感染対策を行いながら、少しずつ活気を取り戻しています。

感染対策中での看取りケアを経験し、御利用者・御家族の望まれるケアに向けて他職種で協力しながら、個別サービスへの取り組みも実施しています。

また、入院者も多く、医療機関と連携を図り、早期発見・対応に努め、御家族の視点に立った対応を実施できるよう協力体制を行っています。

まだまだ収束が見通せない状況ですが、どのようにしたら日々を楽しく、快適に過ごして頂けるか、また御利用者が安心・安全に「その人らしい生活」を送って頂けるかを考え、職員が協力して、サービスの質の向上に向けて取り組んでいます。

BCP では感染症のみならず、災害発生時の対応等、あらゆる場面を想定した研修や訓練を実施し、御利用者の安全を確保する為の体制へ向けて取り組みたいと思います。

《サービスの基本方針》

- ・職員が“ワンチーム”となり、サービスの質の向上に努めます。
- ・感染対策を徹底し、御利用者及び御家族が安心できる支援を行います。
- ・外部研修や内部研修、班活動から、知識や技術の向上を目指します。
- ・kizuki やヒヤリハットから対応策を徹底し、重大事故を未然に防ぎます。
- ・SDG s の取り組みを推進していきます。
- ・BCP を策定し災害発生時、感染症蔓延時に備えます。

《行動目標》

『人の「想い」を大切にし、ひとつの輪 (PDCA) でチャレンジしよう』

《数値目標》

平均稼働率	長期入所	96% (1日平均 48人以上)
	短期入所	85% (1日平均 17人以上)

令和6年度事業計画

ゆうゆうの里デイサービスセンター

《現状の総括及び課題と問題点》

デイに通うことがご利用者の「ニーズ」となるようなサービス提供を目標に、通所介護計画書に力を入れ、職員が個々の力を出し切り、一丸となり「ゆうデイらしさ」として事業目標に取り組むことが出来ました。チーム力の向上により職員間の関係性も更に良好となり、自然とお互いに助け合い支えあうことにより、チームの雰囲気も明るく良い雰囲気が日常の業務やご利用者への対応にもよい効果をもたらしています。また、年間を通じてご利用者の望むイベントを計画・実施し、笑いと楽しさを提供することが出来ました。

来年度は、楽しい笑いのある事業所を基本としながら、行動目標にした固定観念にとらわれず様々な角度からのサービス提供に挑戦し、さらに上質な介護サービスを提供、在宅で生活をするご利用者、ご家族に頼られるデイサービス、地域の中にある身近な介護事業所として、地域への働きかけを行いながら取り組み、利用率の維持・向上を図っていきたいと考えます。

《サービス基本方針》

- ・年間を通じて職員一人一人が、発想力を高めご利用者、職員と一緒に楽しめるイベントの企画と実施を行い、笑顔や笑いの絶えないサービス提供を行います
- ・ご利用者の状態に合わせた機能訓練、レクリエーションを継続し、楽しみながら残存機能を十分に活かせるサービス提供を行います
- ・職員個々の資質向上とサービスの均一化に向け、各専門職が主体となって事業所内研修を開催します。
- ・BCPを策定し非常災害時、感染症蔓延時に備えます。

《行動目標》

『固定観念にとらわれず様々な角度からの

サービス提供へ挑戦！～let's challenge!～』

《数値目標》

目標稼働率 80%（1日平均40名以上）

令和6年度事業計画

ゆうゆうの里ヘルパーセンター

《現状の総括及び課題と問題点》

令和5年度の行動目標にした「ご利用者を受け入れ尊重する」については、傾聴と共感を意識して取り組みました。職員間の情報共有もしっかり行い気持ちの良いサービス提供ができていると思います。

また、昨年引き続き、人材の確保は重要な課題となっています。コロナは5類となりましたが、実際にコロナウイルスに感染しているご利用者への訪問に対しては、引き続き置かれた環境下で訪問事業を適切に継続できるように考えて行かなければなりません。

本年度も「安全」「安心」なサービスを提供するために研修を行い、サービスの均一化と職員の資質向上を図ります。

在宅生活を支える事が地域福祉を支える一助になるという自負を持つとともに、統一した質の高いサービス提供ができるように真摯に仕事に取り組んでいきたいと思えます。

《サービス基本方針》

- ・笑顔で訪問。ご利用者の思いを知り、理解し寄り添い前向きな生活を送る為の架け橋となれるよう支援します。
- ・離れたご家族の方にも安心していただけるように、ご利用者の様子をしっかりと観察しサービス提供を実施していきます。
- ・報告・連絡・相談をしっかりと行い、法令を正しく理解してご利用者に負担のかからないサービスの提供に勤めます。
- ・基本となる研修を行うことで職員個々の資質向上を図ります。
- ・BCPの策定をし非常災害時、感染症蔓延時に備えます。

《行動目標》

『ご利用者を受け入れ尊重し、生活の質を維持し、住み慣れた家で
自分らしく過ごせるよう支援いたします』

《数値目標》

- ・実利用者人数 70名（月延べ提供回数 650回以上）

令和6年度事業計画

ゆうゆうの里ケアプランセンター
「居宅介護支援事業所」

《現状の総括及び課題と問題点》

昨年度は5人体制となり、新規利用者の紹介も多く全て対応していましたが、ご本人・ご家族も高齢となり施設入所・入院等が多く、ご利用者が定着せず担当者人数が伸び悩んだ要因となっています。

最近では担当のご利用者だけでなく家族にも支援が必要な場合が増えていきます。各関係機関、多職種、地域の方等との連携を図り在宅生活を支えていきたいです。又、今年度は法改正があります。様々な情報を収集し、柔軟な対応を行って行くと共に、私たちケアマネジャー一人ひとりが知識・スキルを高め、自己研鑽に努め邁進してまいります。

《サービス基本方針》

- ・地域ケア会議への参加と地域課題解決への協力、実践を行います。
- ・多職種、他機関との連携を図ります。
- ・自己啓発に努め、知識向上、人間形成に努めます。
- ・特定事業所としての必要な責務を全うするよう努めます。
- ・BCPの策定をし非常災害時、感染症蔓延時に備えます。

《行動目標》

ケアマネジャー1人ひとりの知識、技術を最大限に発揮する

《数値目標》

- ・ 要介護ケアプラン作成数 月 130 件
- ・ 要支援ケアプラン作成数 月 8 件

令和6年度事業計画

ケアハウス さいわい

《現状の総括及び課題と問題点》

令和5年度はコロナが5類に移行したこともあり、感染対策を講じながら季節行事や外出行事で気分転換を図りました。日々の生活では身体機能や認知機能の低下を防ぐ取り組みや自立支援で意欲の向上に繋がるよう努めてきました。個別にも自由に外出やご家族との交流もして頂き徐々に日常を取り戻すことができています。

しかし高齢化に伴い身体機能の低下や認知症の進行により4名の入退居がありました。また転倒による骨折等で4名が長期入院され、全員が揃うことが珍しくなっています。

新規入居者を検討する際に申し込みをされているにも関わらず在宅での生活の継続を望まれていたり、認知機能の低下によりケアハウスへの入居が困難な方等が殆どで入居者探しに苦戦しています。また光熱費や水道代も高騰しており令和6年度は洗濯の有料化も検討しています。

《サービス基本方針》

- ・ 個人の習慣や思考を理解し個別に興味関心のあることを提供するとともにご利用者間でも協調できるよう支援します。
- ・ 季節行事、レクリエーション・手仕事・脳トレを充実させ楽しみながら脳の活性化を図り認知機能の低下予防に努めます。
- ・ 介護サービス事業所、医療機関との連携強化を行いご利用者の自立支援に努めます。
- ・ 感染予防、体調管理、体力作りを行い持病の悪化や病気の発症を予防するとともに体調の変化時は医療機関に繋がります。
- ・ 転倒予防の為に生活環境整備、福祉用具の使用提案、身体機能の低下を防ぐ支援をします。
- ・ SDG s の取り組みを推進して行きます。
- ・ B C P の策定をし非常災害時、感染症蔓延時に備えます。

《行動目標》

ご利用者の個性の尊重、自立を支援し日々の生活の充実、意欲の向上を図ります。

《数値目標》

- ・ 平均稼働率 15名（15名定員）

令和6年度事業計画

特別養護老人ホーム作東寮「介護老人福祉施設」
「短期入所生活介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

今年度も新型コロナウイルス感染や職員の体調不良等により、自分たちの思い描く「関わり」を持つことができず、ご利用者一人ひとりに十分な関わりを持ち「利用者一人ひとりを更に深く理解し、その方にあった個別ケアを提供する」という目標を継続的に実施し続けることができなかつた。個人単位での外出やレクリエーション、その方の望むものを実行可能な範囲で模索、計画することができていたが、感染症により予定が崩れ、その後の計画立案が遅れ、再度、感染症発生といった状況が続くように実施することができなかつた。

令和6年度はリベンジの年と捉え、昨年度にやり遂げることができなかつた、ご利用者・職員が共に笑い、共に笑顔になれる一年にしていきたい。そのために「ご利用者一人ひとりを深く理解すること」を念頭に置き、定期的な会議、カンファレンスの実施、ご利用者と職員が共に楽しみ笑顔になることのできるイベントを実施します。そして施設の機能として「看取り」の体制づくりも多職種共同のもと情報共有や方向性の意思疎通を図りながら、急がず、焦らず進めていきます。「自分たちの目指す施設」に向かい、良い想像力を持ち職員が一丸となって業務に臨んでいきます。

《サービス基本方針》

- ご利用者一人ひとりを深く理解し、職員も共に楽しみながら、個別ケアを提供するた、カンファレンスや会議等を開催し、情報の共有に努めます。
- 「ヒヤリハット」「事故対応策・改善策」の共有を行い、事故の発生、再発防止に努めます。
- ご利用者の希望（ニーズ）を実現するために、職員一人ひとりの長所（強み）を生かし、職員間の協力体制を整備します。
- みおつくしの職員基本行動心得である「あいさつ」「言葉使い」「みだしなみ」等に注意し利用者や職員にとって、より快適な生活環境を作ります。
- 「認知症ケア」「身体拘束廃止」「虐待防止」への理解を深め、適切な支援を行います。
- 地域の方々や関係機関との信頼関係を更に構築し「作東寮」の存在価値を高めます。

《行動目標》

『ご利用者・職員が共に笑い、

共に笑顔になれるサービスを提供します。』

《数値目標》

- ・長期平均稼働率 96%（定員40名に対して38.4名）
- ・短期平均稼働率 80%（定員3名に対して2.4名）

令和6年度事業計画

作東寮養護老人ホーム「養護老人ホーム」

《現状の総括及び課題と問題点》

コロナ禍以降、外出や行事などが制限された生活が続き、ご利用者の方々には我慢をしていただく事が多い一年となりました。又、職員においても少ない人数で支援を行う日が続き、職員の負担が多くなった一年でもありました。しかしながら、職員各々がご利用者と積極的にコミュニケーションを取ることを心がけ、対応することに努めました。また、ご利用者との係わりの中で「気づき」を職員間で共有し迅速に対応することができました。この事は養護のチームとしての強みであると考えます。研修等に参加する等ブラッシュアップし対応力を上げていきたいと考えます。

今年度も引き続きご利用者の想いに寄り添う事を大事にしながら日々の生活を支援していけるよう努めます。また、行事や企画においてもご利用者の希望をお伺いし、ご利用者と職員が共に考え共有する時間を大事にしたいと考えます。更に、ご利用者が自分でできる事を日常生活に取り入れ、おこなっていただけるよう職員が提案・支援することで、ご利用者一人ひとりの能力に応じた自立した日常生活の支援に繋げていきます。

昨年度は一年を通じて満床にならず、経営面でも大変厳しい一年になりました。この状況を解決するためにも昨年に引き続き、「社会福祉法人」の役割として、近隣市町村の担当者との連携を強化し、地域における生活が困難で支援が必要な方への対応を行い、地域のニーズに答え、地域貢献できるように取り組みます。

《サービス基本方針》

- ご利用者の思いや希望を尊重し、ご利用者と一緒に考え、思い出に残る企画を実行していきます。
- メリハリのある生活を送っていただくため、ご自分で出来る事を日常生活に取り入れ、その方に合った暮らしを提案しサポートしていきます。
- 各々の職員が強みを最大限に発揮し、職員同士尊重し合い、協力しチーム力を高めま
- す。
- 「認知症ケア」・「身体拘束撤廃」・「虐待防止」への理解を深め、適切なケアを継続していきます。

《行動目標》

『ご利用者の声に耳を傾け、共に考え、充実した生活を支援しよう。』

季節や地域に触れた企画や行事で楽しんでいただこう。』

《数値目標》

月初在籍 60 名

令和6年度事業計画

訪問介護ステーションいぶき「訪問介護」
サテライト ぱっぴーらいふ

《現状の総括及び課題と問題点》

昨年度は、要介護認定を受けた状態で入所されるご利用者が多く、入浴や排泄、掃除等の支援の組み合わせが多くなっています。また要介護3以上の利用者も増え、ご利用者の入退院も多く、作東寮で「安全・安心な生活」を送るために必要なニーズの把握が難しい時期もありましたが、ご利用者のコロナ感染時等、ご利用者に対して必要な生活上の支援、サービス提供（入浴、排泄、居室の環境整備などサービスの提供）は出来る限り行う事ができ、日常のサービス提供に加え、感染時にも柔軟に対応ができるようになってきました。また地域での訪問介護のニーズが高くなっており、昨年10月より施設外のご利用者、地域への訪問サービスを開始することとなり、施設と地域へのサービス提供を滞る事が無い様、職員間で協力しながら進むことができています。

今後も養護老人ホーム内のサービス提供はもちろんのこと、地域で訪問介護を必要としている方々へのサービス提供にも力を入れ、今まで施設内で培ってきた訪問介護の力と新しく加わったサテライトはっぴーらいふと共に地域へも発信していくことで在宅での生活が困難で支援が必要な方への対応を積極的に行い、地域に貢献できるように取り組みます。職員の構成は、非常勤職員の割合が多いため、効率的な職員配置を行いながらご利用者の自立支援を目指し、ご利用者の状態を把握するために定期的にカンファレンスを実施し、適切なサービスを提供を目指します。

《サービス基本方針》

- 環境整備、排泄や入浴介助等サービスの質の向上を目指し、施設内研修等を活用し、快適な日常生活の提供を目指します。
- 職員間で連携を取り、利用者の残存機能の把握に努め、その機能が継続できる様、意欲が湧くような声掛けの支援を提供します。
- 利用者の状態把握に努め、多職種及び他部署との連携を円滑に行い、情報の共有に努めます。
- みおつくしの職員基本行動心得である「あいさつ」「言葉使い」「みだしなみ」等に注意し利用者や職員にとって、より快適で気持ちの良い生活環境を作ります。
- 利用者との会話を心がけ、支援時に今以上の寄り添い思いを心がけます。
- 職員間で連携、協力を取り外部訪問サービスが、円滑に行えるよう努めます。

《行動目標》

『いつまでも自分らしく過ごす事が出来るよう、

安全で快適な日常生活を支援します。』

- | | | |
|--------|----------|-----------|
| 《数値目標》 | ・外部身体介護1 | 4,000回数/月 |
| | ・外部身体介護2 | 360回数/月 |

令和6年度事業計画

養護老人ホーム塩手荘「養護老人ホーム」

《現状の総括及び課題と問題点》

勝田郡老人福祉施設組合から指定管理を受け、令和2年4月1日より4年間経過し、指定管理期間最後の年度となりました。再度指定管理者として更新できるよう日々のサービス向上に向けて取り組んでいきます。

近隣の市町村との連携強化、課題を抱えた利用者の積極的な入所支援もあり、利用者定員60床を満床の状態ですべて運営出来ています。

昨年度から、運営を外部サービス型から一般型特定入所者生活介護へ変更し、包括的な利用者へのサービス、生きがいの支援も充実してきています。昨年目標とした、「個別の支援」を目標に、今年度も「個別の支援が生きがいの支援」繋がるようなサービスを展開してまいります。

《サービス基本方針》

『自立した生活、生きがいのある生活の支援をおこないます』

《行動目標》

- ① 個別支援を通じて、生きがいを感じられるサービスを提供をします。
- ② ケアプランを充実させ、より良い生活環境を提供をします。
- ③ 嗜好調査をもとに、リクエストメニューの充実を行います。
- ④ 「個別」「全体」を区分し、日常生活に必要な楽しみの場所の提供をします。
- ⑤ ご自分の現在の身体状況が分かり、楽しみが持てる機能訓練を提供します。
- ⑥ 地域のサロンへ参加し、地域への貢献をおこないます。

《数値目標》

月初在籍 60名

特定入所者定員30名を常に確保する